

3 3 基幹航路の確保に向けた名古屋港・三河港・衣浦港の整備推進について

(国土交通省)

【内容】

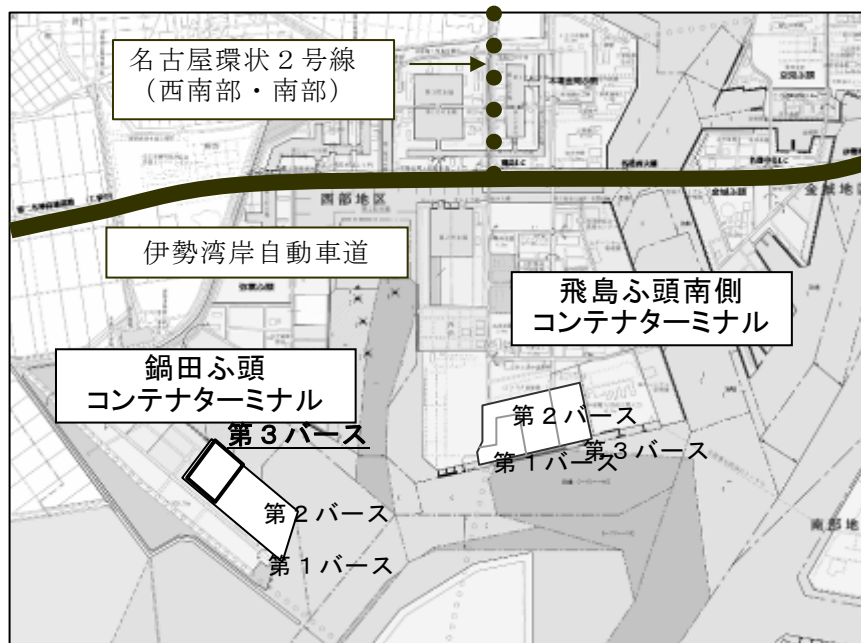
- (1) 名古屋港について、国際コンテナ戦略港湾に選定し、施策の実現に必要な支援を行うとともに、引き続き重点的に整備すること。特に、スーパー中枢港湾のモデルバースである飛島ふ頭南側コンテナターミナルの更なる機能拡充と、アジア・中国物流に対応した耐震強化機能を有する鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの整備推進を図ること。
- (2) 三河港について、自動車輸出入等に対応する、蒲郡地区の岸壁（-11m）を始めとした多目的岸壁の整備を促進するとともに、重点港湾（仮称）への選定はもとより、特定重要港湾への昇格を図ること。
- (3) 衣浦港について、武豊北ふ頭地区の耐震岸壁（-10m）の整備を促進するとともに、重点港湾（仮称）に選定し、新規の直轄港湾整備事業の実施を図ること。

(背景)

- 平成21年12月、国土交通省は、我が国港湾の「選択と集中」による国際競争力強化について検討を行っていくため、国際コンテナ戦略港湾検討委員会を設置し、同委員会での議論を踏まえ、平成22年2月に国際コンテナ戦略港湾の選定を検討する港湾の募集を開始した。名古屋港については、本年3月に国際コンテナ戦略港湾として応募するため、目論見書を提出した。なお、国際コンテナ戦略港湾は、本年6月頃に選定される予定である。
- 本県には、自動車、工作機械、航空宇宙など世界的な「ものづくり産業」が集積しており、製造品出荷額等は、昭和52年以来、連続して全国1位である。それを支える名古屋港は、総取扱貨物量、貿易黒字額において日本一を誇るなど、ものづくり中部のみならず、我が国の経済を支え、牽引してきた。名古屋港の機能強化がなければ、我が国基幹産業の国際競争力の低下を招くこととなる。
- 名古屋港について、コンテナ貨物量の増加やコンテナ船の大型化に対応した港湾施設の整備、中国を始め経済成長の著しいアジア地域との物流に対応した港湾施設の早期整備が必要である。また、大規模地震に備えた耐震強化岸壁の整備も急務となっている。
- 三河港は、多くの外資系自動車企業が立地するなど、その機能と将来性が国際的にも評価されており、地域再生計画（国際自動車産業交流都市計画）の認定及びリサイクルポートの指定を受けるなど、我が国の経済活動を担う港湾としてますます重要性を増し、さらなる発展が期待されている。
- 衣浦港は、石炭、穀物などのバルク貨物を主に取り扱うと同時に、臨海部や背後地域からの工業製品を積み出し、背後地域の物流・生産活動を支える工業港、地域開発の拠点として重要な役割を果たしている。

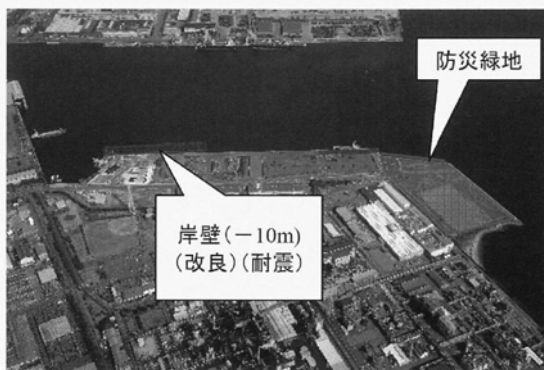
(参 考)

名古屋港



衣浦港

- 武豊北ふ頭地区において、震災時における緊急物資輸送拠点を確保するため、現在利用されている岸壁 (-10m) の耐震化を図り、耐震強化岸壁を整備する。



三河港

- 三河港蒲郡地区において、近年の船舶大型化による岸壁水深及びバース長の不足を解消し、荷役の効率化、安全性の向上、港湾物流機能の強化を図るため、多目的国際ターミナル【岸壁 (-11m)】を整備するものである。

